

# 安重根の意義と日韓関係 —日本外交の視点から—

安重根義士記念館

龍谷大学安重根東洋平和研究センター

2018年11月5日

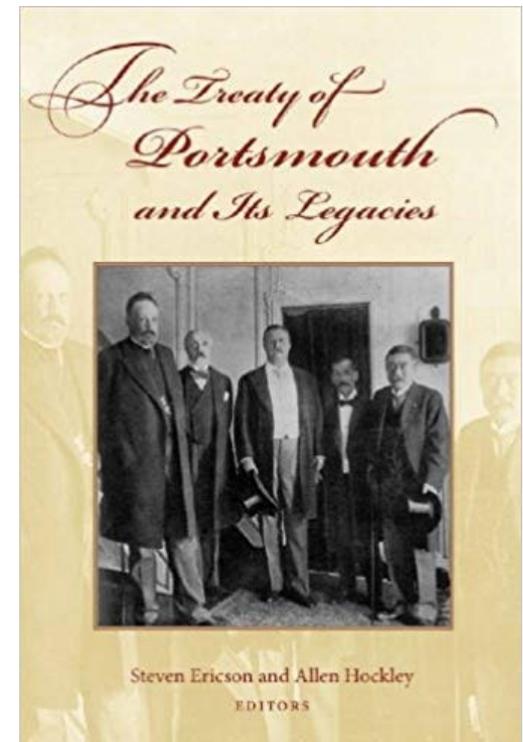
京都産業大学 東郷和彦

# 2005年日露戦争 ポーツマス会議

初めて安重根を知る＝東洋平和論

- 「快なるかな、壮なるかな。数百年来、悪行の限りを尽くした白人の先鋒を、太鼓の一打で大きく打ち砕いたのである。まさに、千古に稀な事業として、万国が記念すべき功績である。この時、韓清両国の心あるものは、はからずも自分たちが同じく勝ったかのように喜んだ。」

Chapter 10, Togo  
“The Contemporary  
Implications: A  
Japanese Perspective”  
(2008, Green Press,  
Page 164)



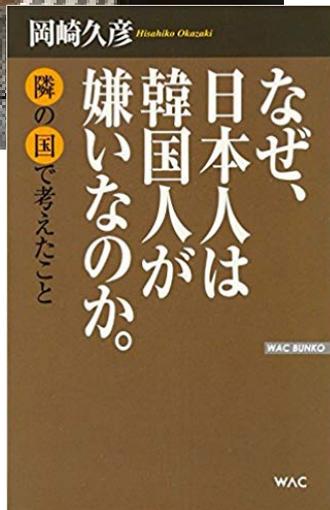
# 千葉十七一大林寺



# 齋藤康彦一大林寺



# 岡崎久彦「隣の国で考えたこと」1983年



- 安重根は、とくに反日的な人ではなかったようです。言っていることは終始理路整然としていて、深い信念に基づくと解してよいです。
- 彼の理念は、日・韓・清が共に団結して東洋に立つということです。
- 安重根がアメリカ人の常識として、「あっ、あのコリアン・パトリオットか」と言われるようになるまでには、日本、アメリカ両方における韓国近代政治史の今後の成熟が必要でありましょう。

# 平石高等法院長面談：

## 安重根の東アジア共同体構想

- 一一〇七年秋安重根記念館日本語ビデオ
- 円満な金融のために共同の銀行を設立し、共同貨幣を発行する。
- 三国の青年による共同の軍団をつくり、二カ国語以上の言語を習わせる。
- 韓・清の二国は日本の指導により商工業の発展を図る。
- 韓中日三国の皇帝がローマ教皇を訪問し、協力を誓う。

# 東郷和彦「日韓関係と安重根」

2008年・講談社現代新書

第三章 日韓の失われた時をもとめて 安重根・116～119ページ



- 安重根の人生、千葉十七との友情、安の抱いた日中韓の未来像は、多くの日本人の心をなごませ、往時の「やりすぎ」を反省させ、隣国には立派な人がいたという謙虚な気持ちにさせ、未来の北東アジアについて、楽観的な気持ちにすらさせるのである。

# ハルピン 安重根記念館



- 2013年6月：朴大統領習主席に安重根の碑建立を提案
- 2014年1月19日：ハルピン駅記念館開館（写真）
- 1月20日：菅官房長官「極めて残念、遺憾」「テロリストと認識」
- 1月21日：韓国外務省菅長官を名指し非難。
- 2015年10月28日：中国側は2018年までに、広さを約倍にする計画を発表。

# 案内板事件 村井宮城県知事 記者会見 2015年6月1日



- (問) 犯罪者の案内板を設置しているのではないか。
- (答) そう思われる方は、外にいて批判されるのではなく、実際あの看板を見て、あの看板どおり一度訪れていただいて、お寺に行ってお話を聞いていただきたいと思います。私も行きました。そして、御住職からいろいろお話を聞きまして、日本人が非常に素晴らしい民族であるという、よりPRするストーリーだなという気がしたわけです。

# ここから

- **日韓関係の根源を考える**
- **東郷茂徳**
- **安倍晋三**
- **東郷和彦他**

# 東郷茂徳(1882~1950)と朝鮮 鹿児島県日置市美山



# 東郷茂徳と日本外交



- 駐ドイツ・ソ連大使
- 東条内閣外務大臣（開戦）
- 鈴木内閣外務大臣（終戦）
- 東京裁判で禁固20年、『時代の一面』執筆後病死
- 母（東郷いせ）の遺言（1997年）：「外交官として一番大事なことは、決断の時、自らは49、相手に51をゆずることを自国で進言すること」

# 安倍の対韓国＝70周年談話

15年8月14日

- あの戦争に何ら関わりのない、私たちの子や孫、そしてその先の世代の子供たちに、謝罪を続ける宿命を背負わせてはなりません。
- しかし、それでもなお、私たち日本人は、世代を超えて、過去の歴史に真正面から向き合わなければなりません。謙虚な気持ちで、過去を受け継ぎ、未来へと引き渡す責任があります。



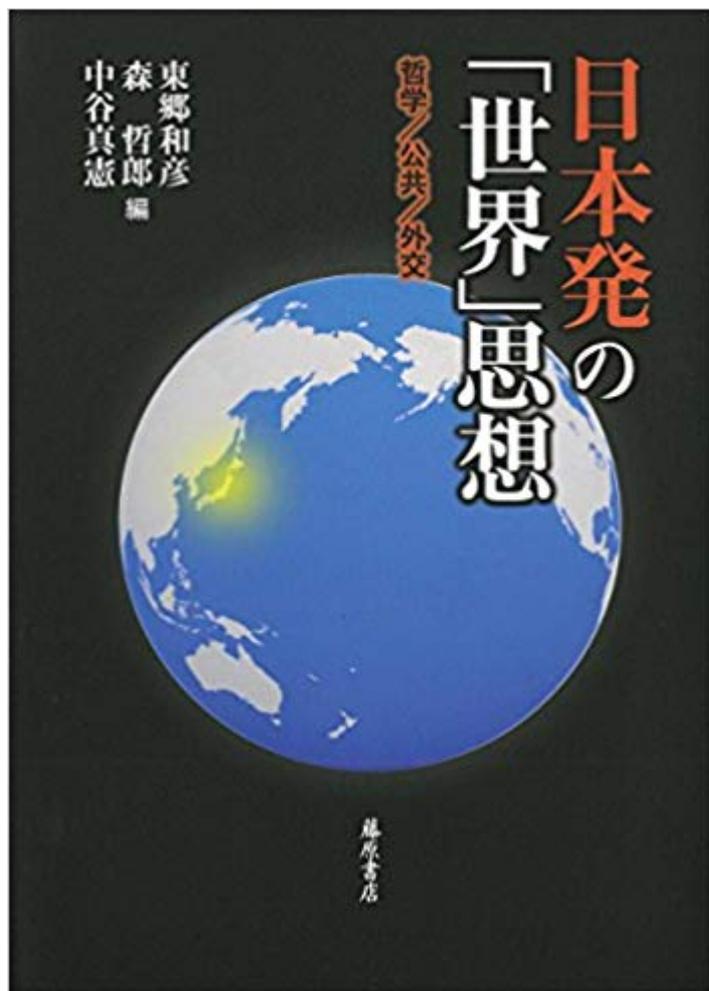
# 安倍の対北朝鮮＝和平パラダイム

## 18年1月～



- 18年4月27日外務大臣談話第4項＝我が国としては、日朝平壤宣言に基づき、拉致、核、ミサイルといった諸懸案を包括的に解決し、不幸な過去を清算して、国交正常化を目指す考えに変わりはありません。引き続き、日米韓3か国の間で緊密に協力していく考えです。

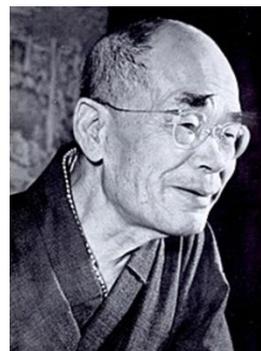
# 東郷他＝『日本発の「世界」思想』



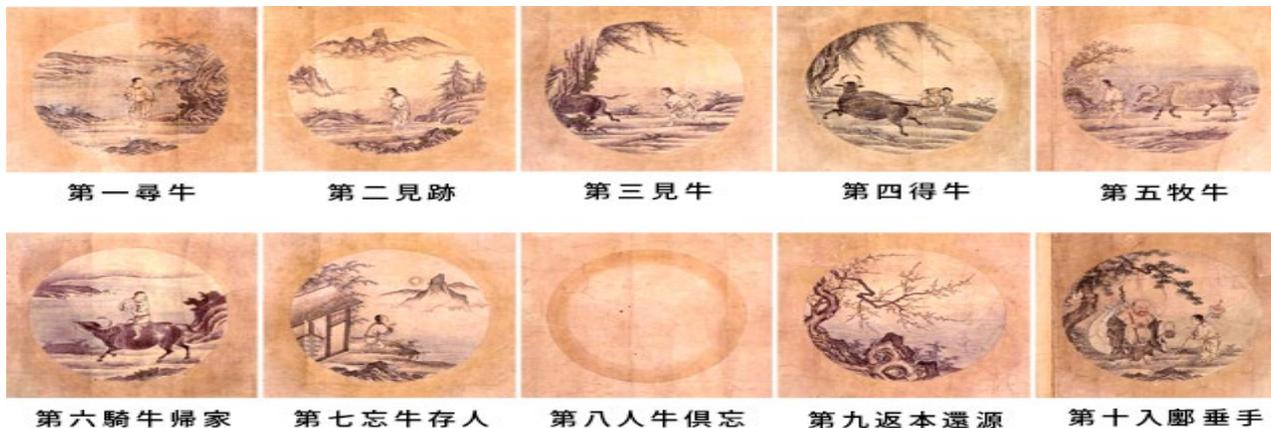
- 東郷和彦・森哲郎・中谷真憲編著
- 『日本発の「世界」思想 哲学・公共・外交』
- (藤原書店、2017年1月)
- 「根」としての哲学
- 「幹」としての公共
- 「枝」としての外交

# 日本哲学の頂点＝戦前の京都学派

## I. 西田幾多郎「絶対無」哲学 鈴木大拙「日本的靈性」信仰



## II. 西田・大拙ともに13世紀鎌倉仏教の禪に、励む＝十牛図



# III. 哲学の起源



- ~400 BC = 縄文時代
- 自然信仰・アニミズム
- 538 中国より仏教 → 神仏習合
- 9世紀 → 草木国土悉皆成仏（天台宗）
- → 13世紀鎌倉仏教（禅宗）

# 日本からの文明論的メッセージ

- 本の結論: 哲学:無 公共:間 外交:和
- 歴史を振り返れば:
- 第一:他者を一旦あるがままに受け入れる
- 第二:日本国内において、独特で独創的なものに作り替える(十牛図第八こまが転換点をしめしているように)
- 第三:開かれた、普遍的でグローバルな形で外部と共有していく